



# くすのき

学校のシンボル  
くすの木

## どんな職業に就きたいですか？ 流れ星に願いを込めて

校長 菊地 勇

暑さがなかなかおさまりませんでした。短い秋を経て、早いもので12月(師走)を迎えます。今年もあと1か月を残すのみとなりました。本格的な冬が到来し、子どもたちの服装は冬服になってきました。新型コロナウイルス感染症も心配ですが、今は、インフルエンザの流行が懸念される所です。学校では、引き続き感染症予防対策を行っていきます。ご家庭でも、手洗いやうがいをしたり、食事や睡眠をしっかりとったりするなどして、予防に心がけていただきますようお願いいたします。

先日、小学生の「なりたい職業ランキング」を調べていました。複数の調査を見てみると、傾向としては、サッカー選手や野球選手などのスポーツ選手、ユーチューバー、芸能人、漫画家、ゲームクリエイターなどがランクインしています。その中で教員や保育士も健闘しています。先生という仕事が「楽しそう」「やってみたい」と思ってもらえたらいいのですが…、私も頑張りたいと思います。コロナの時代になり、医師がランクインしているようです。懸命に患者を救うために働いている姿のニュースなどを通して感じたからなのでしょう。高校生の「なりたい職業ランキング」になってくると、大人になってきて実際に仕事に就くイメージで答えるのか、内容が変わってきます。公務員、看護師、エンジニア・プログラマー、保育士など、少しずつ「働く覚悟」みたいなものができてきているのだと感じ、頼もしくもなります。市民や国民のために、患者のために、ユーザーのために、子どもたちのために…など「人のために役立ちたい」というのが伝わってきます。

もっと調べていくと、「大人がなりたい職業ランキング2022」(サントリー食品インターナショナル)というのもありました。年齢やキャリア、環境などを一切考慮せずにどんな職業にでもなれるとしたら、という大前提です。1位が医師、2位が社長・起業家、3位がパイロットと続き、4位に看護師が入りました。コロナ禍で注目が集まった医療職は「やりがい」を理由に挙げています。今までランキングしていなかった「新職業」では、「公認心理師(心理カウンセラー)」がトップ。「人の気持ちに寄り添う仕事」「ストレス社会に必要な専門職」など、「やりがい」が理由。給与や待遇、将来性よりも、「やりがい」を重視しているのが驚きました。「人を助けたい」「みんなや社会の役に立ちたい」という欲求が強いのかもしれません。どんな仕事でも、社会や人のためになっているはずですが、役に立ちたいという気持ちはよくわかります。私だったら、航空自衛隊に入隊して、パイロットになりたいです。その後、宇宙飛行士になって宇宙に行きたいですね。

冬休みになると、親せきと会う機会が増えてきます。小学生の頃は、将来何になりたい?とよく聞かれました。そのため、こんな話題になってしまいました。夢やあこがれの職業を抱くことは、自分の将来をイメージして見ることになります。それを繰り返すことで、どんな大人になりたいのか、どんな仕事をしたいのかと将来への希望や期待感が膨らんでくるといいですね。(でも、「夢ハラスメント」という言葉もあります。私たち大人が、子どもに夢を持つことを押し付けないよう気をつけていきたいですね)

願い事をかなえるためには、努力が必要ですが…。流れ星に願いをかけてみましょう。

12月は、安定した出現が期待できる「ふたご座流星群」があります。12月15日(金)の朝方4時ごろがピークを迎えます。ですから、12月14日(木)の宵のころから、月明かりの影響も少ない最良の条件で観察できます。完璧な防寒をして、保護者とチャレンジしてみたいですか?冬の大三角を見つけてその東側(左側)に2つの明るい星を見つけたらそれがふたご座です。見つけられなくても、冬の大三角の方向を見ていれば、流れ星が見えるかも(1時間30個くらい期待していますが)。夢を描いて、流れ星に願いを!